

「まだ早い? でも、知っておきたい!」 小学校受験はしたほうがいいのか?

取材・文＝椎名佳子 写真＝宇賀神善之

アンテナ・プレスクール代表 石井至氏に聞く

受験者減 「本気の受験」主流に



adviser
石井至さん

アンテナ・プレスクール代表、
いいいたる／1965年北海道札幌市生まれ。東京大学医学部卒。東京でお受験対策のための幼児教室「アンテナ・プレスクール」を経営。名門小学校に毎年多数の合格者を出している。「慶應幼稚園」(幻冬舎新書)など著書多数。

私

立中学の受験者もついに減少に転じたと言われています。では、小学校受験は、現在どういう状況にあるのでしょうか。

「リーマンショック以降、多くの私立小学校が受験者数を大幅に減らしています。経済的なゆとりがない保護者にとっては、ない袖は振れないというのが現実なのでしょう。」と石井さんは言います。

「2009年度は、23倍だった慶応幼稚園の女子の倍率が、2012年度には14倍にまで下がっています。これは本気でわが子を私立小学校に行かせたいと願っている親にとっては願ってもないことです。みんながするから、ではなく本気で私立を考えると家庭にとってはよい時代になってきたのではないのでしょうか。」

しかし、小学校で入学すると一貫校の場合は、高校まででも12年間、大学もあれば16年間、その学校に通い続けるわけですから、できれば納得して通わせたいものです。では、小学校受験をする際には、どのような視点で学校を選べばよいのでしょうか。

にアップデイトすることはとても重要です。」

私立の場合は、なんといっても校風が合うかどうか大きなポイントになってきます。女の子の場合などは、女子校に行ってみると今どきなかなかないような、女の子らしいおやかさをもった児童さんがいて、「ぜひこの学校に入りたい」と親のほうがるパターンも少なくありません。やはり、親も実際に足を運んでみるのが大切なのです。

学校改革で大きく変貌した 優良校も見逃すな

「とくに受験者減のこのご時世でも志願者数を増やしている学校には注目してほしいです。たとえば、東京都市大学付属小学校(以下、都市大)などは、10年前には定員割れしていた学校です。それが学校改革が功を奏して、今では

5倍以上の倍率になっています。

都市大は、系列校以外を受験して中学からは出ていく生徒も多いのですが、中学受験に必要な学力をつけるノウハウがしっかりとあります。先生方もとても熱心で、私立ならではのきめ細やかで粘り強い指導をされています。それでいて行事や体験授業にも定評があり、楽しい学校生活が送れるなど、親が学校に求めるものを兼ね備えているところが評価されています。」

変えることに成功しました。しかし、それも昔のイメージで学校を判断していれば、分らないことです。

選択肢を広げて、
子どもに合った学校を

もちろん、私立小学校ならどこでもいいというものではありません。お子さんに合った学校、それが一番大切なことです。ただ、親のほうが勝手な思い込みで、「うちの子はこの学校じゃない」と決め込むことはないようにしてほしいと思います。

受験指導をされている幼児教室の先生方は、総じて「その子に合ったところに学校は決まります」と言われます。それがたとえ第一志望ではなかったとしても、いい学校に入れたら、と家族で喜んで通える子は、きつといい学校生活を送れると言うのです。そのためには、受験する学校を親がしっかりと見定める必要があります。

「私立ならどこでもいい」わけではありませんが、「ここじゃなきゃダメ」なわけでもないのです。都市大のような目覚ましい進化を遂げている学校は、きつとはかにもあるのですから。



ducare特別編集

0~6歳の
能力を伸ばす
知育トレーニング

0歳から やっておきたい 教育

スペシャルインタビュー
池田清彦

眠りと赤ちゃん
ねんね
トレーニングの
すすめ

医・食・住特集

放射能から子どもを守る
赤ちゃんの頭がよくなる食事
子育て家庭の震災対策

親の顔が見てみたい

五輪代表 田中理恵
芸能界一の博識 辰巳琢郎の父親力
サッカー日本代表 長友佑都

4歳からやっておきたい教育

小学校受験はしたほうがいいの？

小学受験を通して
「親の考え」が鍛えられる

生まれて5カ月で足し算、引き算ができる!?

0歳がもってる不思議な能力

定価 780円

●日本経済新聞出版社